

神奈川県ビリヤード協会 -議事録-

2025.6.11 12:00～ 14:05 Zoom 会議



参加者：安藤・崎村・板橋・田口・荻原・石井・杉万・黒岩

| 1

議論内容：

1. 活動報告
2. 杉万志寿枝氏の担当業務範囲の確認・承認について
3. 黒岩義樹氏の担当業務範囲の確認・承認について
4. 荻原伸之氏（KPBA 理事長）の担当業務範囲の確認・承認について
5. 代表枠と補助金について
6. 女子代表補助および KPBA 選考会に関する課題と提案
7. 大会業務フロー
8. その他

1. 近況の活動報告（安藤）

- ・近日、協賛企業への挨拶と協賛依頼を行いに行く。
- ・近日 KBA と関連のある 2 名の方の親族が亡くなった。弔事対応をどのようにしたら良いのか相談したい。
→KBA として香典の支出は問題無いと思う。（黒岩）
→一般的な団体では、会員本人、会員家族、会員内親族等についての弔事規定を定めている。
この機に弔事規定を作成した方が良くと思う。一方で規定を定めるとケースバイケースでフレキシブルな運用ができなくなる懸念はあるがルールとして作っておくことが望ましい（板橋）
→弔事規定の案を作成して次回の理事会にて取り上げることにする。（石井）
- ・県知事杯の会場を決める件に関しては会場費を確認した上で理事会で報告し使用するか検討したい。（安藤）

2. 杉万志寿枝氏の担当業務範囲の確認・承認について（石井）

令和 7 年度の総会にて、杉万氏が会計監査になることが承認された。杉万氏は前年度までは事務局のサポートを有償にて行っていた。今年度は経理業務を除いた事務作業を有償で、また会計監査を無償でお願いしたい。

→できれば会計監査と事務作業は分けるべきだが、組織の体制を考えると人材がないというやむを得ない状況がある。杉万氏が事務局として単独行動をすると説明ができない状況となってしまうが事務局長の指示の下でサポート的な事務作業をするのであれば問題ない。一人二役やらざるを得ない状態を脱して早く団体を大きくして団体の活動を活発化させられればと考えている。（板橋）

→前年度まで会計監査（無償）を引き受けていたがお金の中身に関わる活動は行っていなかった。経理業務を除いた事務作業を行う事に対して反対はない。（黒岩）

杉万志寿枝氏が今年度は経理業務を除いた事務作業を有償で、また会計監査を無償で行う事を理事会にて承認した。

3. 黒岩義樹氏の担当業務範囲の確認・承認について（石井）

黒岩氏が理事に就任した背景は以下の通りと認識している。

- ・理事長の推薦により理事に就任した。
- ・KBA が努力している姿勢や、ビリヤード業界への貢献を重視し「できることは協力する」との姿勢。
- ・形式的な役職ではなく、実際の活動を通じて貢献する意思あり。

このような背景の中で黒岩氏については、本人の意向を尊重し、作業内容・頻度については事務局と随時調整しながら以下の業務を担って頂きたいと考えている。

1. キャロム競技に関する大会運営
2. 関係者との調整・意見集約
3. 理事会・イベントでの意見提言

→キャロムだけでは無く必要に応じてポケットに関しても活動に協力することはできる。ポケットは担当している**運営者**がいるので、その下で人手が足りなければ必要に応じて業務を手伝うことは可能。

また試合やイベントなどの企画に対しては自分の意見を発言することはできる。

KBA と対外組織との外交や個人的に人脈のあるプロや他団体や他組織の関係者から情報の収集をしたり調整の協力／手伝いをすることができる。

黒岩義樹氏について上記の条件の範囲内にて理事業務を行うことが理事会にて承認した。

4. 荻原伸之氏（KPBA 理事長）の担当業務範囲の確認・承認について（石井）

過去の前任者（元 KPBA 理事長園山氏）の対応実績をもとに、以下の業務を担当範囲として頂きたい。

1. 総会および理事会への出席
2. KBA 主催大会における KPBA 連携業務
3. 大会資料等の確認・承認業務
4. KPBA 内の意見集約と KBA への報告

荻原氏は KPBA 理事長としての公的立場を前提とし、実務作業は必要に応じて事務局と協力する。

実務的な負担過多を避けるため、KBA 内の個別事務作業やイベント現場対応は基本的に対象外とし、調整・承認・報告等の業務を主とする。

上記の内容で前任の園山氏から既に話を聞いており業務範囲は問題無い。新たな業務が発生した際には理事長や事務局と相談しながら対応を行っていきたい。（荻原）

荻原伸之氏について上記の条件の範囲内にて理事業務を行うことが理事会にて承認した。

5. 代表枠と補助金について（石井）

KBA 主催の大会における優勝者の特典（県代表の出場権）と代表補助について纏めた資料を説明

→理事全員の現状の代表枠と補助金についての認識を統一した。

6. 女子代表補助および KPBA 選考会に関する課題と提案（石井）

- 6-1. 現在、KBA では、都道府県選手権の女子代表に対しては「代表補助（旅費・宿泊費上限 3 万円 + エントリーフィー）」を支給しているが、全日本アマチュアインボール選手権（アマナイン）の女

子代表については補助が支給されていない。主催は両大会共に NBA にも関わらず不均等が生じているのでアマナインの女子代表についても補助を支給したい。(石井)

→NBA が主催する全国大会の県代表についての補助はどちらかに有ってどちらかには無いというのは良くないと考えている。両方無しにするか予算に余裕があるのであれば補助を出した方が良いと思う。(黒岩)

→赤字イベントが多い中で支出を増やすことは大丈夫なのか(杉万)

→予算は問題無いと判断している。(石井、田口)

アマナインの女子代表についても都道府県選手権の女子代表と同様に補助を支給することが理事会にて承認した。

6 - 2. KPBA による女子代表選考会の開催に対する補填について (石井)

都道府県選手権の女子代表予選では、KPBA が予選の会場費は払っても運営費を賄えないケースもあると聞き及んでいる。これまで KPBA は特に金銭的補助を求めることなく継続的に協力してくれてきましたが、このままの運営が続くことは健全な関係とはいないので KPBA が KBA の代行として行う代表選考会について、必要に応じて KBA から開催費等の補填を行う制度を検討したい。

→アマナインは全国的にメジャーで人気の高い大会。また、交通の便が良く出場し易い大会なので予選会に参加してくれる選手は多い。一方で、都道府県選手権については、補助の有る無しの問題よりも開催場所によって予選の出場者の数に影響があると考えている。今回の青森県で開催される都道府県選手権については、女子級 予選の出場者は 3 名と例年より少ない。神奈川県から遠い開催場所であり移動を含めると金土日の間が必要となる。また日曜日中に帰宅ができるかも含めて考えると試合に行ける選手は限られてくる。この辺が出場人数が少ない原因と推測している(荻原)

→予選会を開催している事を知らない人も多いのではないかと。広く選手に知ってもらえるように告知の方法を工夫した方が良く考えている。出たい人はいると思う。(黒岩)

→運営費の補填についての検討よりも先に広告宣伝費を使い出場者を増やす努力をする。そして収支をプラスに持っていき様なお金の使い方をした方が良く考えている。(板橋)

→「KPBA のホームページへの投稿」と「KBA のホームページや SNS への投稿と加盟店舗へのメール連絡」は行ったが広く周知はされていないと思われる。(石井)

→広告宣伝で効果が高いのはオンザヒル。しかし、一都三県で公平に全国大会の予選会が開催されていないと逆に問題が起きる可能性がある。現状では予選会を開催していない県もあるので慎重な配慮が必要。オンザヒルは JAPA と年間契約をしているので宣伝することは可能(荻原)

「KPBA による女子代表選考会の開催に対する補填について」はペンディングとなった。

ただし、困っているところには手を差し伸べなければならないので、KPBA から今年の都道府県選手権女子代表選考会の収支明細を付け KBA に請求できることとし、15000 円を上限として赤字がでた分については KBA が補填することに決定した。

7. 大会業務フロー（石井）

責任や役割分担を明確にするために大会業務フロー図について説明を行った。

現状の課題

- ・事務局がほぼ全ての作業に携わり分業になっていない
- ・各大会に「大会責任者」を置くことが決定したが、肩書だけで機能的な役割が明確に決まっていない。
- ・業務の責任の所在が明確となっていない為に連携ミスが発生し今後はトラブルや問題が発生する可能性がある。
- ・事務局が直接正会員と連絡を取れない。事務局と正会員との間に信頼関係が築けていないので大会責任者の仲介が必要。
- ・だからといって、事務局と正会員が直接コンタクトを取り合うと大会責任者に情報が行き渡らず現場の状況把握と判断ができなくなる可能性も懸念される。

→基本的な考え方として、大会責任者をまずは決めてその後に、アシストしてもらえる正会員を大会責任者が集めるのが良いと考えている。（板橋）

→ポケットの大会に関して、大会責任者は神奈川を東西で分けたときに、東を崎村氏、西を安藤氏が担当することに決定し大会責任者がアシストしてもらえる正会員を集める事に決定した。

→情報が行き渡らない事を懸念している件については、LINE WORKS を利用した方が良いと考えている。試合毎にグループを作成し情報を皆で共有することで解決できる。（杉万）

→LINE WORKS を今一度整備し正会員をグループに入れることに決定した。

8. その他

- ・新たに今年度から A-1plus 所属の石田知余芳氏が正会員になった。ポケットもキャロムもできる人物なので両方の手伝いを行える人材。キャロムの大会では黒岩氏の下でのアシストを期待している（安藤）
- ・6 / 1 5（日）の都道府県選手権 女子級の予選会には荻原氏、黒岩氏が出席する。
認定書を KBA が出した方が良い。（黒岩）
→事務局が作成することに決定した。
- ・近日、協賛企業に対してご挨拶に行く予定。県知事杯や KBA 杯の大会フォーマットについての話し合いの機会を設けてポスターや要項の準備をしていきたい。（石井）
→了承（荻原）

以上